

平成30年度第2回成田市保健福祉審議会子ども・子育て支援部会
会議結果概要

1 開催日時

平成30年10月30日（火） 10:00～11:00

2 開催場所

成田市役所 6階 大会議室

3 出席者

(委員)

青木部会長、中村委員、山崎委員、根本委員、小林委員、小泉委員、
石川委員

(事務局)

健康こども部：菱木部長

子育て支援課：坂本課長、藤崎課長補佐、高仲係長、吉野主査、
在田主任主事

保育課：小林課長、宮崎主幹、小瀬澤係長、柴田係長、石毛主査

健康増進課：田中課長、中村主幹、門井主幹

社会福祉課：町田課長

4 議題

(1) 利用定員の変更について

(2) 第2期成田市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査について

(3) 家庭的保育事業の認可について

5 配布資料

- ・ 会議次第
- ・ 資料1 利用定員の変更について
- ・ 資料2 第2期子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査について
- ・ 資料3 家庭的保育事業の認可について

6 議事

○議題(1) 利用定員の変更について

(資料1に基づき事務局から説明。主な質疑応答等は、以下のとおり。)

委員：赤坂保育園について、いくつか質問したい。職員の増員は何名を予定しているか。看護師が常駐するか。開所時間は、1時間延びて20時までになるという理解でよいか。

事務局：職員の増員及び看護師の常駐については、市役所全体の職員数の関係もあるため、人事部局と詳細について協議をしていきたい。なお、開所時間については従前から変更はない。

部会長：赤坂保育園の運営はいつからか。

事務局：既に運営を開始している。10月1日から玉造保育園が再開し、赤坂保育園は従来の0歳児から2歳児、各10名ずつが残っている。また、3歳児から5歳児は、希望があれば受け入れている。連携については、平成31年4月1日から開始予定である。

委員：今までより定員が150名増えるという認識でよいか。

事務局：赤坂保育園としては、定員は変わらず、変更前と同様に180名である。変更前の改修園分150名の定員で地域型保育事業所の卒園児を3歳児、4歳児、5歳児をそれぞれ50名受け入れる。

事務局：赤坂保育園はニュータウン内5園の保育施設を改修工事するために建てられた保育園である。ニュータウンの保育園はすべて150名定員であり、150名分を確保する保育施設に加えて、0歳児から2歳児の待機が多かったため、赤坂保育園として、30名の定員を設けて180名定員で運営を開始した。150名分については、ニュータウン内5園の改修が終わり、新たに地域型保育事業所の卒園児の受け入れに活用することになったので、市全体として150名の定員が増えることになる。

委員：これにより待機児童は解消するのか。

事務局：増加する150名の定員は小規模保育事業所卒園児の受け入れ枠として考えており、協議中ではあるが受け入れられる見込みである。それにともなって、ある程度の待機児童の減少は考えられる。

○議題（2）第2期成田市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査について

（資料2に基づき事務局から説明。主な質疑応答等は、以下のとおり。）

部会長：設問については、この内容で進めていく方針か。

事務局：8月下旬に国から示された指針に沿って、追加しなければならない

項目や新設の項目を追加し、前回の調査と比較して、回答者が答えやすいように調整をしている。

委員：まず、実態調査のためのアンケートについてであるが、子育て中の母親は、子どもや日々の生活に追われて、手紙が来ても開封すらしないなど、比較的余裕がないと思う。反映させてほしい人の声が届かない。声なき声を救ってほしいと思う。それにはやはりアンケートを配布し、回答を待っているだけではなく、市から子育て世代が集まる場に出向いて、口頭でのアンケート調査等も考えた方がより多くの意見を聞くことができる。回収率が前回は44.2%とのことだが、どのくらいの回収率を目指しているのか。

事務局：回収率につきましては、100%が望ましいが、私どもとしては、5割を超える回収率を目指したいと考えている。

事務局：確定事項ではありませんが、今回の郵送のアンケートの回収率の推移をみて、場合によっては、保護者の方が多く集まっている場所でアンケート調査の実施を検討しているところである。実施場所等の詳細については定まっていない。

委員：仕事をしている中、このような書類が来ても軽く目を通して、一時置いておくと、気が付いたら期限が切れていたということは多々ある。せっかくの意見を反映できないのはもったいないと思う。また、児童ホームについてだが、せっかく入ったのに先生と折り合いが悪くやめてしまう子もいる。友達は早く帰れるのに自分は帰れないといったことで不満があったりするので、子どもを預けられるだけで、お母さんたちは安心して働けるわけではない。私の子が行っている児童ホームはすごくアットホームな指導員の方で、厳しい言葉もありがたいと思っているが、それが嫌で辞めてしまう子どもたちもいる。また、昔と比べ子どもが変わり、接し方が難しい部分があり、指導員の先生たちも少し戸惑いを感じていることもあったりするようである。指導員の方の資格制度はあるのか。活動内容や指導員の方のケアができると親も安心して預けられると思う。

部会長：ニーズ調査を実施することを市内に事前に周知する予定はあるか。

事務局：子育て世代の方にご覧いただいている「なりた子育て応援サイト」にアンケート調査を実施していることを知らせる記事を掲載する予定である。調査票の中にもサイトのQRコードを記載している。

部会長：ニーズ調査をやり、大勢の人の意見を聞きたいということ自体のPRはあるか。

事務局：「なりた子育て応援サイト」を使いPRしていく。

委員：「なりた子育て応援サイト」に掲載するとのことだが、サイトからアンケートを回答できるようにしたり、回答してくれた人の中から抽選でうなりくんグッズをあげたりといったことをしてみてもどうか。このアンケートは文章の量もあり、回答するのが大変である。ある程度知識のある人たちでも読むのが難しい。無作為で聞くというのは大事なことであるが、若いお母さんたちに答えてみようかなと思ってもらえるような工夫が必要だと思う。

委員：私も子どもがいる中で文章を読むのは本当に大変だと思う。昨日、このアンケートを未就学児も就学時も両方ともやってみたが、言葉が難しい。未就学児のアンケートでも回答時間は15分くらいであるが、その時間を取るのもなかなか大変である。お母さんたちは空いている時間にスマホをよく見るため、やはりインターネットサイトや携帯電話を使ってアンケートに答えられると良いと思う。それに加えて地域で使えるクーポン等があるとより多くの方が回答してくれると思う。また、お母さんたちが集まっているなかよしひろば等に出向くと多くの声が拾えるのではないかと思う。

事務局：回収率の状況によって保護者の集まる場所に出向いて調査を実施することについて検討中である。前回調査時には、パソコンからのみであるがインターネットでも回答を受け付けていた。インターネットでの回答は3,900件アンケートを送った内30件程度であった。現在は、スマートフォンが普及するなど、環境もだいぶ変わってきているため、次期計画以降については紙だけではなく、スマートフォンを使用した回答についても検討していきたい。

部会長：委員からあったように文章を読むことが苦手な保護者が増えているのではないか。こちら側から動いていくなど新しい試みをやっていると良い。

事務局：今回の調査に反映するのは難しいが次期計画以降のためにも、皆様から挙げた意見を参考にさせていただきたい。

○議題（3）家庭的保育事業の認可について

（資料3に基づき事務局から説明。主な質疑応答等は、以下のとおり。）

質疑なし

○その他の質疑応答

委員：幼稚園の入園者数は、減ってきている。市内の幼稚園で定員に達

しているのは、2～3園ではないか。幼稚園・保育園・こども園の役割の分担を図っていかなければ、共倒れする懸念を感じている。関係者による協議の場が設定できると良い。

委員：ソーシャルワーカーの保育園への配置を提案したい。地域の問題と個人の問題の両方の解決する役割を担えるのではないかと思う。